

(一社)南相馬除染研究所 MDL
 Chief Coordinator 田中節夫

市町村合併から10年 南相馬市民人口は!!

小高町、鹿島町、原町区の市町村合併から、2016年は10年目の節目にあたります。
 この間、東日本大震災と福島第一原発の事故により市民は避難を余儀なくされ、5年目あたりはまだ帰還が果たせない方々がおられる状況にあるなど、決して平坦な10年とは云い難い年月でした。
 また、この未曾有の事故により若壮年層を中心とした人口減少が加速されている傾向が有ります。
 この実態を改めて整理し再認識することで、復興への道を確認め合うことも大切だと考え、人口動態をまとめました。

1. 市町村合併10年の人口動態

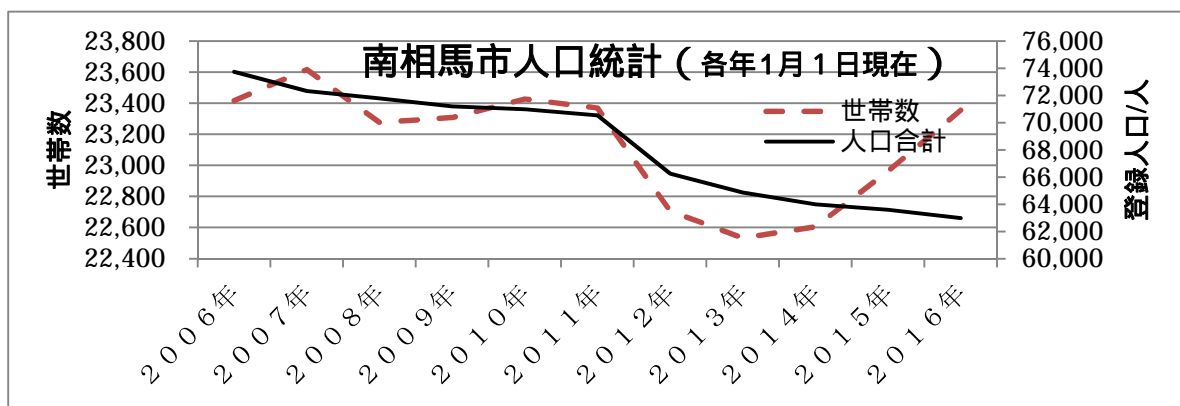
市町村合併10年間 1/1時点における登録人口動態(西暦2006年を100とした各年比)

平成	H18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年
西暦	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
人口合計比	100	98.1	97.3	96.6	96.3	95.7	89.9	88.0	86.8	86.3	85.4
男比	100	97.8	97.4	96.5	96.3	95.7	90.5	88.6	87.6	87.6	87.3
女比	100	98.3	97.3	96.6	96.3	95.6	89.3	87.4	86.0	85.0	83.7
男女比	1:1.07	1:1.07	1:1.07	1:1.07	1:1.07	1:1.06	1:1.05	1:1.05	1:1.05	1:1.03	1:1.02

南相馬市役所広報より抜粋

2006年から10年後の今年初の人口は、およそ15%も減少しています。

2. 市町村合併後の人口動態

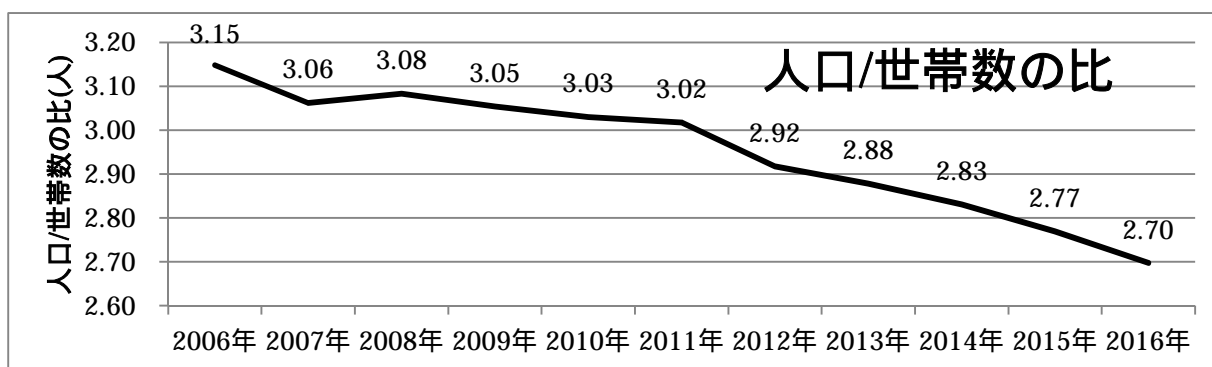


原発事故前後の人口減少を比較すると、減少率は原発事故前より後のほうがおよそ倍の速さで減少していることが分かります。

他方、世帯数では増加し、市町村合併直後に近いレベルとなつています。

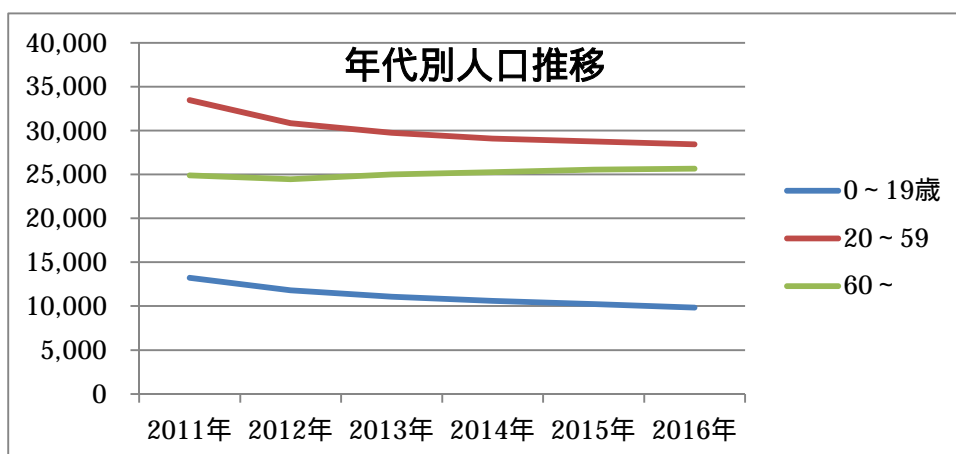
これは何故?

3. 人口を世帯数で割ったときの一世帯数人口



審査居間へはあまり大きな変化は見られませんが、震災後は一帯人口が少なくなっています。これは核家族化または独身者(普通に考えれば若い人の流入を含む)の独立などが考えられます。

4. 人口に占める年齢層



人口減少の中で60歳以上の老年層は増加し、労働人口を含む若壮年層が減少の因となっていることが分かります。

このことから、決して独身者の流入が人口/世帯の比に影響を与えることよりも、震災以降の核家族化の影響が大きいのではと推定されます。

その内、市外へ避難されておられる方々は昨年の7月時点で約2割1万人強に上ります。

5年を経た今現在これらの人々の若壮年層の就業先が避難先にあるときは、ますます若壮年層の人口減少が危惧され、同時にこれらの人々は未来を担う幼児など扶養家族の減少にも影響を与えることから町の長期的な活力復興に大きな影響を与えかねません。

その視点からも地元の魅力ある産業の創生が急がれます。

区分	H27-1/1	H27-7/15	構成比
	2015年		
登録人口	63,597	63,971	100%
自宅居住者		43,992	69%
市外避難者		11,823	18%
市内避難者		8,156	13%

参考) 10年前の人口は73,722人
震災直前は70,522人でした。